



はなのき

神坂小学校だより No.9 2023.11.24



日常の積み重ねで「人間力」を磨く

校長 伊藤 博章

先日、東海・北陸地区連合小学校長会教育研究大会で、フリースタイルスキー男子モーグルで北京冬季五輪銅メダリストになった堀島行真さんの講演を聞いてきました。堀島選手は2018年の平昌オリンピックが初のオリンピック出場でしたが、結果は11位と悔しい結果で終わりました。平昌での雪辱を果たすべく日々練習に励み、2022年北京オリンピックでは銅メダルを獲得しました。

この間の4年間、堀島選手は技術だけでなく、心も磨くことで「人間力」を高めました。そういった取組の成果が銅メダルの獲得につながりました。

今回のお話の中で、印象に残ったのは次の言葉でした。



- ・目標にたどり着くためには、一つの道ではなく、多くの道がある。あなたの目標の達成方法を見つけることが大切だ。
- ・「人間力」＝「①スキー技術」＋「②スポーツ力」＋「③健康」＋「④挨拶」＋「⑤社会貢献」＋「⑥勉強力」の合計と考えて自らを高めてきた。①～⑥は上限を100とし、全部が満点ならば「人間力」の満点は600となる。①や②だけといったように偏ったものだけ高めても、総合的な人間力には限りがある。偏らず、バランスよく高めたい。
- ・大切にしたいのは「言葉からの心得、経験からの言葉」である。

今年度、神坂小学校では「伝え合い」を大切にしています。「言葉を大切にしたい」というところはその通りだなあと、今回の講演を聞きながら感じました。

さて、11月11日にたくさんの方々にご参観していただいた中、神坂小学校文化祭を実施しました。開始までの静かに待つ姿勢、大きな声での返事ときびきびと移動する姿、人の話を顔を見て静かに聞く姿など、日常の学校生活で大切に積み重ねてきた成果を感じることができました。

各学年の発表は、子供たちの緊張と一生懸命さが伝わってくるものでした。自分たちができるようになったことを、演奏や合唱、朗読やオペレッタを通して堂々と発表する姿に心を打たれ、「もっと見ていたい」という思いになったのは私だけではないと思います。全校三味線発表では、お互いの音を聞き合い、息を合わせながら演奏できました。同じパートの手が同じ動きをすることや、演奏待ちの美しい姿勢、会場内の空気の震えなど、五感で楽しめる演奏でした。全校が一つにまとまっていることが強く伝わってきました。

どの発表も、当日まで努力と練習を積み重ねてきました。そして、その成果が発揮できた素敵な時間でした。努力の大切さとやり切った満足感を通して、自分に自信をもち、自己肯定感を高めることができた文化祭となりました。

先日、陶芸教室で講師の保母先生が来校された時に、児童玄関で下駄箱の写真を撮られていました。「こんなにきれいに靴がそろえてある下駄箱は見たことがない。思わず写真を撮らせてもらいました。」と言われました。日常の中で、自分たちがあたりまえにできていることが、「大変素晴らしい！」と評価してもらえることはとても誇らしいです。毎朝、自分の靴を揃えられる子供たち。全員が登校したあとに、その靴を見届けながら最終確認してくれる6年生。その毎日のあたりまえの光景が、実は神坂小学校の「人間力」を高めています。